

ネクストジェネレーションプラン version2 ～農業で地域を発展させ、守る～

作成年度 令和5年

作成者 (株)ファームイング

代表取締役社長 岩田 真也

(株)ファームイング ネクストジェネレーションプラン version2

作成者 (株)ファームイング 事業主体 (株)ファームイング

はじめに

当社は平成12年度完成の「県営■■■■地区担い手育成基盤整備事業」による圃場整備事業の採択要件の一つとして、地元関係者の理解と出資のもと平成8年2月8日に地域の担い手組織としての農事組合法人「ファーム・イング」を設立し、地域の農業を将来に渡って継続・発展すべく「水稲・トマト・白ねぎ」の栽培に取り組んでまいりました。その後、単価下落により白ねぎ栽培を中止し、「水稲と日南トマト®」に特化して営農活動を展開しております。

また、組合員の高齢化と農地の相続登記未完の事象発生対応として、事業の永続性と組織の存続を図るため、平成23年度には農事組合法人から株式会社に組織変更し、地域外の社員の採用（現在20代～30代の若者6名。完全月給制、雇用保険・労災保険・厚生年金加入済み。空家を借入して社宅として提供）、農地の借入れにおいては、自動更新が可能な農地法3条に基づく賃借に変更し、今日に至っております。

現在高齢化率70%以上の山間地で当法人は、「地域の耕地を守っていく」ことを、最大の目的としており、単に採算的な面だけで事業の取捨選択は出来ません。この先も耕作放棄地を出さないように、営農を継続して行かなければなりません。

近年の中山間地における「高齢化・限界集落化」は一層深刻であり、今後は井手管理に始まり、自治会運営など農業や経営以外の面でも近い将来『(株)ファームイング』が要として活動していかなければ、この地域自体の存続ができなくなってしまう状態です。そのため、当社は今後も地域内外の意欲ある若者を積極的に採用しながら、他産業に負けない福利厚生と労働環境や作業内容改善にも力を入れることで経営発展と地域維持の両立を目指します。当社は代表も含め社員が農業未経験者ばかりで、農業経験の少ない部分で失敗も多々ありますが、色々と新しい事にチャレンジすることを目標として、平均年齢30歳と町内農業法人ではトップクラスの若さで頑張っています。そして、若い社員が満足して定年まで働けるよう…地域に当社に人が集まり、残ってもらえるよう…若い世代が農業をしてみたいと考えてもらえるような農業に取り組んでいきたいと考えています。

当社のこれまで（これから）の理念・目標

① 地域を守ること

『地域に貢献・地域の保全・維持・発展に努める』

② 中山間地域トップの複合経営体になること

『法人間連携・作業合理化・作業の見える化、作業内容のデータ化』

③ 次世代を担う地域の人材育成を継続すること

『人が集まる・人が残る農業の実践』

1 生産経営の現状

1) 生産経営の現状

経営実績

①収益：令和4年度（毎期2月1日より翌1月31日まで）全て税抜

水稻販売額	██████████
トマト販売額	██████████
そば等販売額	██████████
作業受託	██████████
営業外収益	██████████
（内飼料用米助成金）	██████████
収入計	██████████
経常利益	██████████

②経営面積等

水稻面積（食用米）	12.611ha
水稻面積（飼料用米）	19.202ha
水稻合計	31.813ha
トマト面積	1.018ha
そば	3.707ha
経営面積合計	36.538ha
作業受託	JAより種苗・育苗作業受託

組織構成

取締役4名 監査役1名

社員6名 ※平均28.3歳（██████████）

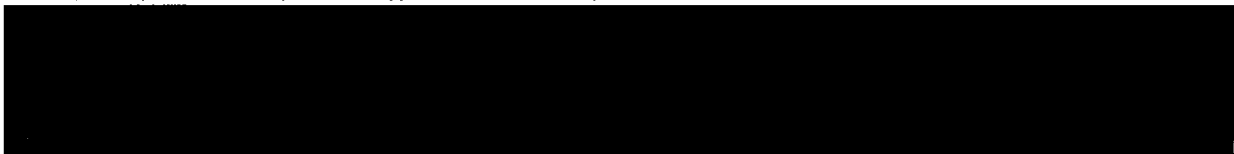
パート1～2名

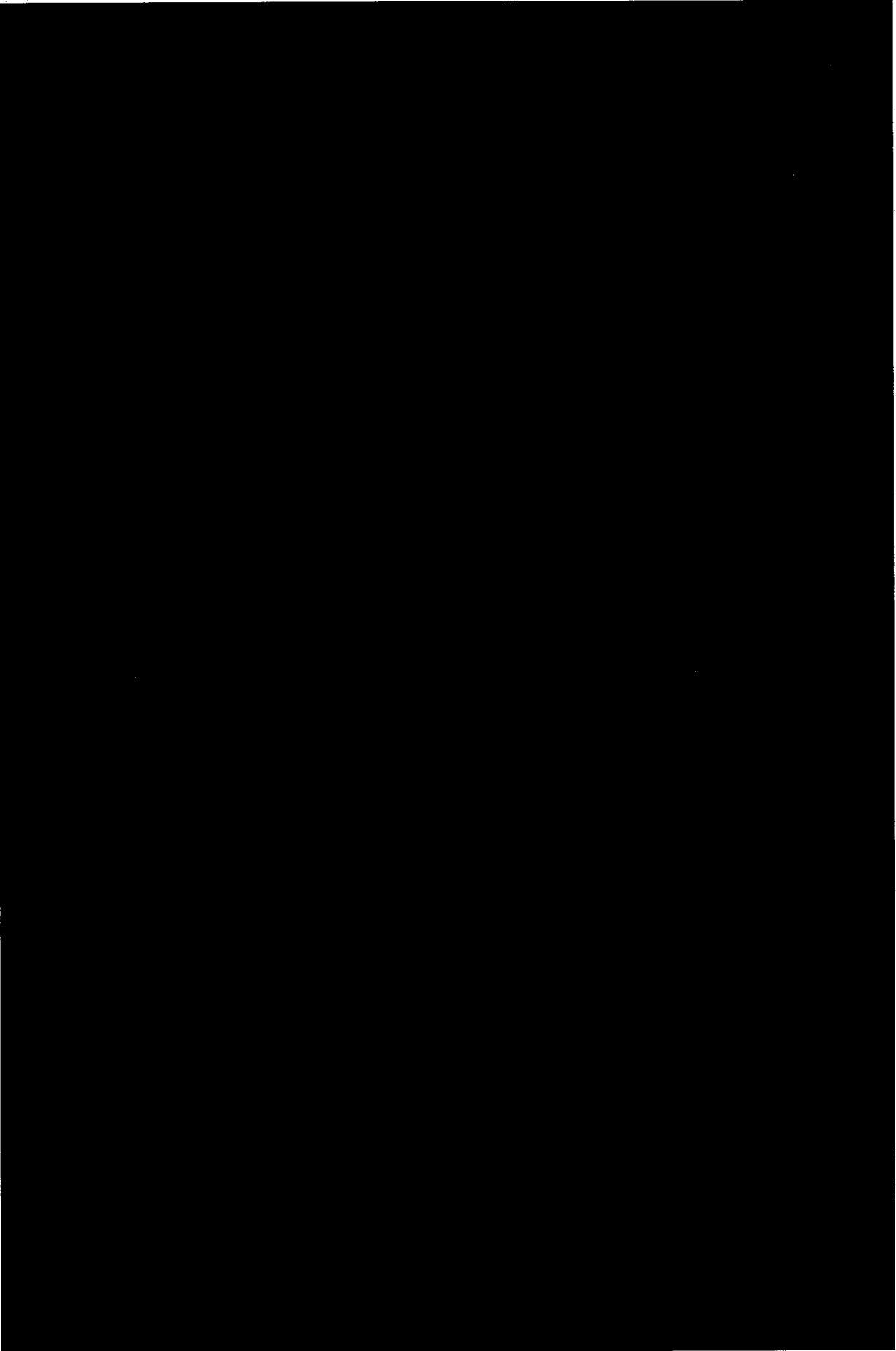
※令和4年度（第28期）定時株主総会により役員・人数変更

（近年の受賞履歴等）

- ・H26 鳥取県知事表彰
- ・H27 法人経営体部門 全国優良経営体表彰
- ・H30 JA鳥取西部 トマト生産部 優秀生産者
- ・R1～4年 JA鳥取西部 トマト生産部 優秀生産者

2) 農業施設・農業機械所有状況（令和5年3月現在）





2 背景と課題等

(地域の背景と課題)

耕作者、農地に携わる方が年々減少してきている。そのため、農地に加え、農地に付随した水路、河川、景観維持、鳥獣害対策等、収益に結びつかない維持管理作業についても、当社が担っていく必要が生じている。

また、現在、経営地区外の維持管理作業も依頼があり、受託している。

(当社の課題)

【労力・人材の不足】

- 1、耕作面積が増えてきているが、従業員の担当面積、負担も増え、人材育成、モチベーション維持、作業環境改善が課題となっている
- 2、水稲作付面積の拡大及び水稲種苗・育苗の受託増加により、作業時期が重なるトマト定植準備作業の人員確保が困難になってきている。
- 3、米価が低い状況でも、担い手として地域の水田を引き受けていくことが求められている。そのため米穀部門とトマト部門とのバランスを取りながら人員を確保・経営を行っていく必要がある。今後に向けては、米穀部門作業の合理化により、作業時間削減及び人員の確保が必要となる。

【機械の能力不足等】

- 1、古くなった既存機械の消耗が増えメンテナンス代の増加が課題となっている。
※R4年度…トラクタークローラー交換代金：■万
- 2、トラクター作業（耕耘、荒代掻き、植代掻き）、水稲育苗受託の播種作業、トマトの定植準備は時期が重なる。さらなる面積拡大のためには、所有する機械の大型化が必要となっている。
- 3、主食用米の価格下落に対応するため、作付品種を多収性品種・飼料用米へ移行しているが、現状のコンバインでは馬力不足、処理能力不足となり、詰り、胴体内部損傷（穴あき）等、マシントラブルが発生している。
- 4、収量の多い多収性品種及び飼料用米の導入により処理粒数が増加したことで、作業中のコンバイン

から粉塵が多発するようになり、作業員は長袖・長ズボン・マスクを着用して作業を行うようになっている。加えて、近年の異常気象により秋が高温化していることから、作業員の熱中症や喘息が心配される。オペレーターや補助作業員の負担軽減が課題となっている。

3 改善内容と効果、プランの目標

【労力・人材の不足・機械の能力不足の改善】

1、機械の大型化による作業効率の向上と人材不足の解消

高齢化率 70%以上の当地では、今後も農地が入ってくると思われる。高齢化率が高い為、隣接する農家や農地が何時頼まれてもおかしくない状態となっている。また、隣接する集落には、若手や担い手が不足しており、作業受託や小作が増加すると思われるため、トラクター、コンバイン等の農業機械を更に大型化し作業効率を高め、農地を守っていく。

トラクターについては、現在所有する 75ps トラクターからよりパワーのある 80ps 級のトラクター(クローラー)を導入し、作業機幅(ロータリー2.4m/ドライブハロー4.2m)をロータリー2.6m/ドライブハロー5mへ拡大することにより、作業効率を向上させる。耕うん作業にかかる作業時間も短縮されるので、人員配置の最適化(日南トマト®生産へ労働力を回すなど)が可能になる。また、水管理にも労力時間を回すことが出来るようになり、結果、トラクター代掻き、田植え精度の向上、パイプライン電気代の節約にもつながる。

近年、高齢化に伴う地域の井手・水路管理作業に関わる作業員の減少により水稲・野菜・生活に必要な水利維持管理が困難になってきている。機械の大型により作業効率を高め、作業計画を見直し水利維持管理作業にも人員を配置し地域内外の人材減少を補うことができる。

コンバインについては、面積拡大に対応するため、現在のラインナップ(4条-47ps、5条-87ps)を4条-72psと6条-115psに大型化させて規模拡大に対応する。コンバインの大型化により、多収性品種・飼料用米の刈取り時でも馬力不足や、処理能力不足となる事も少なくなる。また、刈取り稲、藁の詰まりの解消、耐久性向上によりマシントラブルも少なくなる。よって、メンテナンス・修理代の削減にもなる。

また、地域の理解のもと、令和 3.4.5 年と圃場整備により新たな大区画圃場が完成し、経営面積の 80%以上が大区画圃場や区画整備された圃場となり、トラクター、コンバイン等、機械作業の作業効率が向上される。

2、オペレーターや補助作業員の負担軽減

田植オペレーターとナビをトランシーバーインカムで通信出来るようにし、必要な苗数、肥料数や圃場状態、次の作業等をリアルタイムに会話できるようにして、作業の無駄を無くす。常にオペレーターとナビが通信により会話出来るため、植え付け、施肥等の作業ミスを減らし、手直し作業という無駄を減少させることができる。

コンバイン及びトラクターについては、粉塵対策と熱中症対策として全てキャビン付とする。また、オペレーター以外の従業員(トマト・水稲)に熱中症対策器具(ネックファン)を配布し、従業員の体調管理、作業スピード・能率の向上を図る。

3、自社メンテナンスによる修理コストの低減化について

トラクターやコンバインの稼働時間が年々増加しており、消耗部分・部品、修理代が課題となっているが、自社で使用毎に必ず水洗いをし、毎回点検、オイル注油、稼働時間数の記録をし、自社メンテナンス出来るようにする。全ての修理、部品交換、メンテナンスをJAへ委託するのではなく、自社で出来る事、箇所を把握し、修理コストを下げる。

4、ICTの活用による作業の合理化について

アグリノート（ICT）を活用し、作業内容・記録・栽培管理のデータ化・見える化を図った上でミーティングを開き、作業の効率化・疲労・負担の軽減に努める。また、アグリノート以外にも作業、生産物の実績をPCで表にまとめデータ化・見える化により次年度へ活かすようにする。水稻・トマト責任者は、毎日3日間先まで作業予定を立てるようにしており、無理無駄を削減し、更なる作業の合理化を進める。

また、見える化・データ化による全社員の農業経験不足部分を補う為に、作業記録・生育状態をデータ分析→蓄積を行って、誰でも栽培管理しやすくできる。作業を数値化や表にしてまとめていく。

5、人材確保、従業員の健康被害対策・育成・福利厚生について

人材確保のために、全国版ハローワークへの掲載・就職セミナーへの参加などは継続する。地域内外の法人間連携により人材不足という課題解決を行う。法人間で人件費、作業賃を協議、統一しスムーズな連携や人材の行来を行い、労力、人材不足を解消する。

また、法人間の従業員同士で、作物の現状や技術、生産実績等の情報共有を行い、若手従業員の技術の向上、新技術導入、収量向上、コスト削減に努める。

従業員の昇進・年昇級・処遇改善をし、仕事上での権限や責任を与え、モチベーションupに努める。また、米を自社で買い戻し、朝食・昼食に炊きたてのご飯を提供し福利厚生の改善に努める。（目標：定着率を90%へ！！）。

独立就農希望者も積極的に受け入れ、雇用し人材育成に努める（R3(株)ファームイング退職後、岡山にて1名独立就農 親元就農予定者1名：R8～R10年退職予定）。日南町産業振興センターから日南トマト®独立就農希望研修生受け入れも行っている。自社ハウスを貸し出し、自作研修施設にもなっている。過去、2名卒業し、独立就農後日南トマト®栽培実績では、2名共に反収量10t以上によりトップ10以内にランクインしている。

現在の社宅を一部改良し部屋を増やし、居住環境を整備して、研修生やインターンシップ学生を積極的に取り込み、雇用につなげる。また、現場事務所トイレを改修し職場の環境改善を行う。

中山間ネットワーク協議会や西部水田経営者会議等と交流をし、当法人の現状、水準や従業員の技術または課題点等をしっかりと学び共有し、意識・レベル向上に努める。また、西部水田経営者会議等、日南町だけではなく、町内以外の法人と積極的に交流し、中山間地域だから…平地だからというのでは無く、幅広い視野で学び、当法人経営に活かしていく。

6、その他

当社の理念でもある『地域の耕地を守っていく』という面でも、地域を守るためには、収益とは関係

なく面積をこなさなければならない場合もある。農業機械を大型化にすることにより作業性の向上やコスト削減により面積をこなす栽培する圃場と、収量をしっかりと確保する圃場を明確にし、作業内容の改善・繁忙期の分散ができる。

【プランの目標値（単位：ha）】

	現状 (R4)	1年目 (R5)	2年目 (R6)	3年目 (R7)	目標年 (R8)
水稲面積 (食用米) (利用権設定)	12.615	12.615	11.315	11.315	11.315※
水稲面積 (飼料用米) (利用権設定)	19.201	20.145	21.445	21.445	21.445
水稲 作業受託	0	0	0.500	1.000	2.715※
水稲合計面積	31.816	32.760	33.260	33.760	35.475※
トマト	1.018	1.018	1.018	1.018	1.018
ソバ	3.707	3.707	3.707	3.707	3.707
経営面積	36.541	37.485	37.985	38.485	40.200※

※経営面積 40.2ha と水稲合計面積 35.475ha が目標値。水稲面積と水稲受託面積の割合は変わることもある。

3 目標達成に向けての取組(年次別の行動計画)

項 目	内 容	R5	R6	R7	R8
水稲面積の 拡大	耕作放棄地の解消（利用権先 拡大）農地集積	○	○	○	○
新規雇用	労働力の確保（※1）	○			
ICT 農業の 実践	栽培作物の管理・生育状態の データ化・見える化を行う。 (自社マニュアルの作成)	○	○	○	○
作業の合理 化	スマート田植機8条の実装(※ 2)	○			

	高密度播種ロール購入 大型育苗機購入	○			
	コンバイン 72PS 購入	◎			
	コンバイン 115PS 購入		◎		
	トラクター80PS 購入			◎	
	オペレーターと作業員をトランシーバーで会話出来るようにする トランシーバー・インカム購入	○			
働き方改革 の実践	データに基づく社員ミーティング実施による、管理改善担当者制度導入	○	○	○	○
職場環境改善	熱中症対策導入	○			
	朝食・昼食白米提供	○	○	○	○
	社宅・トイレ改修	○	○	○	
人材育成	研修生、インターンシップ生 独立就農希望者受け入れ	○	○	○	○
法人間連携	人材育成、行き来、作業助け 合い	○	○	○	○

*◎は県、町の支援が必要なもの（がんばる農家プラン事業）

(※1) 期間中に最低1人の雇用。

(※2) 令和4年度事業で導入、令和5年度の田植えから利用。

4 機械・作物・経営などの年次別計画

年 度	令和5年 税抜	令和6年 税抜	令和7年 税抜
機械・施設 導入計画	コンバイン (4条 72ps) (11,940,000 円)	コンバイン (6条 115ps) (17,608,000 円)	トラクター一式 (80ps) (11,468,200 円) グランドロータリー (1,600,000 円) ウィングハロー一式 (2,344,000 円)

(注) () 書きには事業費を記入すること

5 支援事業の内容

(単位：円)

内容	事業費 (税抜き)			負担区分
	R5 (計画)	R6 (計画)	R7 (計画)	
コンバイン (4条、70ps)	11,940,000			県 1/3 町 1/6 事業主体 1/2
コンバイン (6条、115ps)		17,608,000		
トラクター (90ps)			11,468,200	
グランドロータリー			1,600,000	
ウィングハロー			2,344,000	
合計	11,940,000	17,608,000	15,412,200	

<添付書類>

- ・経営試算表
- ・見積書
- ・カタログ